

平成22年度三重県歯科保健推進部会（三重県8020運動推進協議会）議事概要

日時：平成23年3月3日（木）

10：00～12：00

場所：三重県歯科医師会館1階会議室

委員：11名

1 開 会

2 挨拶

3 新任委員の紹介

4 議 題

- ・ 三重の歯科保健の現状と三重県の歯科保健課題および今後の歯科保健対策について
- ・ 平成22年度8020運動特別事業報告について
- ・ 平成23年度三重県歯科保健推進計画について

【中井会長】皆さまおはようございます。ただ今ご紹介に預かりました三重県歯科医師会の地域保健を担当しております中井孝佳と申します。新任の委員の皆様が4人もお見えですが、この2年という任期のいよいよ最後の協議会になりました。といいますのは、この2年間に三重県と三重県歯科医師会、或いはその関係団体の皆さんと一緒に歯科保健対策を行ってきた、その成果について今日は総括をし、今後の歯科保健対策、特に三重県民の現状を把握しながら、歯科保健対策をこれから考えて頂く、そして次期に申し送りしていくことが、今日の会議の位置づけになります。各会の皆様には後ほどご意見を頂戴したいと思います。また今日は愛知県の方から、愛知学院大学の中垣教授にお越しいただきましたので、本当にあり難く思っております。この会議の名前の8020運動、もう既にご存知かと思いますが、80歳以上になっても20本以上健康な状態で自分の歯を保ち、生涯に渡って自分の口から美味しく食べ、身体の健康寿命を延ばしていこうという運動でございますが、その運動の生みの親であります中垣先生にお越し頂いております。この運動、平成元年に始まりましたので、もうすでに22年という歳月が過ぎました。その当時は、日本国民の20人に1人がその達成者ということでした。5人に1人ぐらいを目指そうということでしたが、既にその達成はしておりまして、今現在は4人に1人以上の方が80歳以上でも20本以上のご自身の歯を保っています。ただ、歯の数があるからと手放して喜べるという状態にはなくて、高齢社会におきまして健康でいられる寿命が短くなってきた場合に、それ以降の皆様のサポートが必要になってきます。社会のサポート、地域のサポート。そんな中で、お口の機能を維持していくということは大変なことで、お口の中の健康状態、ひいては自分の口で食べるという機能、このことについて色々と新しい課題が出てきていると言う様な現状でございます。虫歯の数だけではなく、色ん

な対策を三重県民の為にこの会議で考えていただきたいと思っております。

それではまず、事項書に沿いまして議題に入りますが、1番の三重の歯科保健の現状と三重県の歯科保健課題及び今後の歯科保健対策についてということで、まず事務局の方から資料に基づいてご説明お願いしたいと思います。

【事務局】三重の歯科保健冊子は三重県の歯科保健の現状と各市町の歯科保健に対する取組みを1冊にまとめたものでございます。毎年この冊子をつくりまして皆様方に情報提供しています。ヘルシーピープル三重21という三重の健康づくり総合計画は、平成24年までの計画になっておりますが、その中で歯科の指標も15指標あり、中間評価では虫歯の数や、残っている歯の本数、県民の口腔衛生習慣等も改善されておりましたが、その一方歯周病の症状をお持ちの方が増えているということも分かりました。そのような中で各ライフステージに応じた歯科保健対策を行っております。そして25年度から新しい計画になりますので、来年度9月に県民歯科疾患実態調査をさせて頂く予定になっております。20代40代60代80代の県民約3000名程度を無作為抽出しまして口腔内審査と質問調査をさせて頂き、歯の状況と生活習慣の関連等を見て行きたいと考えております。

次に三重県の歯科保健の現在の状況をお伝えします。昭和50年代までは4人に3人の3歳児のお子さんが虫歯をお持ちでしたけども、現在では虫歯の状況も良くなってまいりまして、4人に1人のお子さんが虫歯をお持ちというような状況になってきております。1歳半検診、3歳児検診のそれぞれの状況は地域差が見られます。各市町熱心にお取り組みいただいた結果かなり全体に虫歯が良くなってきている状況です。平成17年の時は、3歳児のう蝕の有病者率というのは40%を超えていたのが、11市町でしたが、昨年度は2市町となり全体的にかなり良くなっております。全国平均と三重県の平均3歳児のう蝕の現状を比べると、以前は三重県は悪い状況でしたけれども、各地域での取組が進んでまいりまして、近年では全国平均に大変近づいてきました。大変成果が出来てきていると考えております。

次に12歳児の状況ですが、DMF指数というのは一人平均の虫歯の数です。三重県の平均は1.86本、12歳児1人のお子さんのお口の中に1.86本虫歯があります。全国平均が1.4本ですので、まだまだ三重県は生徒さんの虫歯が多いというのが現状です。かなり地域差が大きいということがありまして、一番低い所と多いところでは地域差は10倍になっております。特にう蝕の多い地域というのは生活習慣を見直す必要があると思っておりますので、そのような方向から歯科保健の口腔衛生指導等を取り組んでいきたいと思っております。今年は教育委員会さんと連携させて頂きまして、小学校にたくさん口腔衛生指導に行かせて頂くことが出来ましたので、また今後とも連携して進めさせて頂きたいと思っております。

次に、フッ化物洗口の実施状況が載せてあります。フッ化物の水溶液でブクブクうがいをすることによって虫歯予防効果が大変高いので、これは三重県ですすめていきたいと考えております。全国では現在78万人のお子さんが幼稚園、保育園、小学校、中学校で実

施して戴いております。三重県は平成15年は2施設55人のお子さんに実施して頂いておりましたけれども、モデル事業などを行い各市町さんのほうでも公費で負担で実施して頂いたりするところが増えてまいりまして、昨年は48施設1727人のお子様の実施しております。愛知県ではもう10万人を超えました。まだまだ三重県での実施は桁数が違うわけですが、4歳から14歳まで継続して実施することによって虫歯予防効果が高いので、小学校で実施されるように学校とも連携して勉強会などを行っていきたくて考えております。

市町で行っていただいております歯周疾患検診の受診者数は、まだまだ実施して頂いているところは少ないですが、それでも地域8020運動推進協議会などで市町での実施をお願いし、実施数が増えて参りました。平成16年には684名でしたが、平成20年には1714名ということで増加しました。21年度は、2745人ですので、各市町において努力して受診者を増やしていただいております。やはり検診受診率が、良くないということがありますので、効果的な方法をみんなで考えながら良い情報を共有して今後進めていきたいと思っております。そして、検診後定期的な受診に繋げるよう働きかけていきたいと考えております。

次に、今年度三重県が実施しております事業が載せてあります。この中の多くを三重県歯科医師会様と共に進めさせていただいております。そして地域で歯科保健指導をやっていただいているのは衛生士会さんに、また、それぞれの事業において各団体様にご協力戴きながら進めさせて頂いております。29市町の取組をご報告いただいたものを載せてあります。それぞれ協議会や歯科保健担当者会議などを通じ情報提供するとともに、各市町で歯科の指標の設定をしていただくようお願いしてまいりました。平成17年には16市町しか歯科の指標が設定してありませんでしたが、今年度は22市町に設定していただいております。改善に向けて取り組んで戴いているところです。

フッ化物塗布は、実施市町が増えてきておまして、平成17年は14市町でしたが、今年度は21市町が実施して戴いております。それから協議会を通しまして尾鷲では健口検討専門部会などを立ち上げて戴き、色々ご協議戴いているところでございます。

続きまして三重県の課題をご報告させていただきます。乳幼児期、学齢期、成人期、高齢期、障害者というようなことでライフステージに沿った取組みを進めているところです。そしてう蝕予防、歯周疾患の予防対策、そして口腔ケア、ネットワークづくり、人材育成というようなことで考えております。そして課題も、それぞれのライフステージによって課題が違います。乳幼児につきましては全国平均に近づいてきましたけれども、やはりその地域差が大きいので、う蝕の多いところには積極的に働きかけて効果的な取組みを進めていきたいという事があります。それから県としては継続して市町支援をしていかなければならないと考えております。

それから学齢期は、虫歯が多いので、ここは重点課題として取り組んでいきたいと考えております。全国と比較してう蝕が多いこと、それとやはり地域差が大きいということがあ

ります。そして学校歯科医と学校関係者の連携が取れているところと取れていないところがありますので、そういうようなところは連携を取って戴く様に働きかけをしていきたいと考えております。

それから成人期については、ヘルシーピープル三重の調査でも歯周病の症状を持つ方が多くなってきておりますので、ここも重点課題として取り組んでいきます。でもやはり忙しい年代ですので、歯周疾患検診に行っていただくような働きかけが大変難しいということがあります。今後は歯周病だけではなくて全身疾患、特に糖尿病と歯周病との関連などを切り口に医科との連携も進めながら歯周疾患検診の受診率を伸ばし、定期受診に繋げていくような取組を進めていきたいと考えております。

そして高齢期は歯が悪くなって噛めなくなると、摂食嚥下機能が衰えたりすることや、口腔衛生状態の悪化により肺炎などの感染症が起こりやすくなりますので、高齢者の方に対する口腔ケアや、病院に入院された方、そして施設に入られた方、在宅でいらっしゃる方の、切れ目のない歯科医療、そして口腔ケアの充実を図ることが課題となっております。

それから障がい者は二年前に歯科医師会に障がいをお持ちの方に対する調査をしていただきまして、その中で通院が困難であったりとか、医療関係者の障がい者への理解がまだまだ少ないというようなご意見を頂きましたので、昨年2月にみえ歯ートネットという障がい者歯科のネットワークを立ち上げまして、地域の歯医者さんで障がいをお持ちの方が安心して歯科医療を受けて頂けるように取組を進めているところです。まだ始まったばかりですので、今後もう少し協力歯科医院も増えていくように、そしてその協力歯科医院にスキルアップをして戴くような支援が必要だと考えております。このような課題があるということから地域の問題点などを明確化していくこと、それから県として地域支援を強化、人材の育成、確保の必要性ということで課題を挙げております。

この中で特に今後進めていかなければならないのは学校歯科保健対策、そして歯周疾患対策、そして高齢者の在宅医療の充実というところを進めていきたいと考えております。

【中井会長】ありがとうございます。ただ今の事務局からの説明をしていただきましたが、皆様の中で分かりにくかった点、ご質問やご感想、ご意見があればお伺いしたいと思います。いかがでしょうか。この三重の歯科保健は、毎年健康づくり室で取りまとめているのですが、この29市町を見ておりますとずいぶんと格差もあります。県民の健康の中で年齢によっても違いますが、対策もまちまちで、市町の横の連携や協議が必要ということで、現在県内に7地域において地域ごとの8020運動を推進する為の協議会を持っております。そこでもテーマが違ってきておりますので、今後もそういった協議会が行われながら、地域ごとの対策が考えられればよいと思っております。委員さんのほうから何かご質問とかありませんでしょうか。

【中垣委員】以前と比べるとすごく変わってきてる感じがしまして非常によいと思ってい

ます。事務局がご説明になったように、乳幼児は随分改善されてきている所があるということで、まあ地域差は三重県の特徴みたいなところがありますが、改善されていいですね。ただお話になっていたように学校保健の方をもうちょっと全国に近づけて欲しいなと思います。学校保健において、特に第一大臼歯は8020の元になりますので、だからもう少し積極的な取組がいるかなと思います。あと高齢者の歯周病ももうちょっと進めていくといいと思いますけど、この調査の結果だとやはり歯周病が増えてる所があるようですけど、これは説明があるように、歯を残してるので歯周病が増えてきてるところもあるので、愛知県もそうなんですけど、歯が残ってくると歯周病が増えてくるところでちょっと矛盾している感じになりますが、そういうところもあるので歯周病対策も頑張っって戴きたいと思えます。

【飛田委員】小学校で養護教諭をしています。虫歯は全国平均に比べると多いというようになことを言ってみえましたが、学校にずっと勤めていますと以前に比べると大分減ってきたと思います。学校としてはブラッシング指導とか食べ物、硬いものを食べるというような指導を中心にやってきていますが、きれいになってきているので学校側としては少し気を緩めているところがあるかなと思うところがあるので、ブラッシング指導とか食べ物指導とかに力を入れていかなければならないと思っています。また、歯科衛生士さんのブラッシング指導とかたくさん増やしてもらっていますが、このようなことはすごく子供たちの刺激になって残りやすいので、またどんどん活用していきたいと思えます。自分の学校で、今年ライオンさんに申し込みましたが、落ちてしましまして、すごく残念だった思いがあるので、またそういうのも活用して子供たちの心に残るような指導を学校としても考えていけたらと思えます。また、山間部の学校で虫歯の多い学校があるんですが、学校保健委員会の子供たちと協力しながら虫歯予防のダンスで子供たちに啓発を行っていて、すごく楽しそうなのも私たちの研修会の中で皆に広めてもらっていますので、私たちももっと勉強しながら進めていきたいと思えます。

【中井会長】ありがとうございます。今、飛田委員さんから、県の教育委員会との連携で歯科保健の対策事業が今年度なされたということで、教育委員会だけでなく、健康福祉部との連携も非常にうまくいってると思えます。その事業の一つであります今日の議題の2になりますけど、平成22年度8020運動推進特別事業というのがございます。その事業報告につきまして杉原委員のほうから説明をお願いしたいと思います。

【杉原委員】三重県歯科医師会で地域保健を担当しております杉原です。平成22年度8020運動推進特別事業実績報告につきまして三重県歯科医師会の事業分を報告させていただきます。まず、高齢者心身口腔活性化事業と致しまして研修会の開催を行いました。藤田保健衛生大学七栗サナトリウム歯科助教の藤井航先生に2回に渡りまして

口腔ケア研修会を開催いたしました。また、介護予防研修会を日本大学歯学部摂食機能療法学講座教授植田耕一朗先生にお願い致して開催を致しております。また、介護職、看護職、施設管理者を対象と致しました介護予防における口腔機能向上実践研修会、病院歯科における口腔ケアの実践研修会というものも開催致しております。また、口腔ケアの動向調査ということで、口腔ケア対象患者、病院・施設において口腔ケアを受けた患者を対象に、その後の動向調査も行いました。学校歯科保健研修会と致しまして学校歯科保健研修会（フッ化物応用研修会）も兼ねておりますが、朝日大学歯学部口腔感染医療学講座社会口腔保健学分野教授磯崎先生にフッ化物のことを、そしてライオン歯科衛生研究所チーフ歯科衛生士の湯の上先生に食育における学校歯科保健のかかわりについてという形で研修会を行いました。また、地区の学校保健会研修という形で養護の先生方とのコミュニケーションあるいは勉強会のような形で研修会を3回開催しました。学校歯科保健指導事業と致しまして平成22年度は歯科衛生士会にもご協力いただいた分を含めまして15の小学校で歯科保健指導の授業を行わせて頂いております。学校歯科保健先進地視察研修会は岐阜県の瑞穂市立穂積小学校のほうに行きました。学校歯科保健の先進地ということで歯科保健指導の内容であるとかフッ化物洗口の様子等を実際に見学させて頂いております。また学校歯科保健の検診に対するデータシステムの普及ということで検診ソフトのご案内等も行っておりました。次世代育成支援事業として、児童相談所一時保護所入所者への歯科検診、歯科保健指導、こちらのほうは北勢児童相談所と中勢児童相談所で年間10回行っております。歯科医師による検診、歯科衛生士による保健指導等を行い、口腔保健等の啓発に努めております。また食育の推進ということで食育推進会議を開き、かむかむクッキングコンクールというものを開催させて頂きました。詳しいところお目通し戴ければと思いますけども、その結果はお手元の資料の中にも入っておりますけども、かむかむクッキングコンクールの優秀作品レシピ集というような形で残しております。また、妊婦歯科健康診査歯科保健指導の推進ということで、母子保健検診集会を愛知学院大学歯学部小児歯科学講座主任教授の福田先生をお招きして、母と子の健全な口腔機能の維持の為にということで、研修会を開催させて頂きました。また、妊産婦検診受診啓発リーフレットの配布、母と子のハッピーライフというリーフレットを作成し、各市町福祉課保健センター等の母子手帳交付窓口に配布させて頂いて、母子手帳の交付の際にお手元に渡るような形で配らせて戴いております。フッ化物洗口の推進事業ということで、幼稚園・保育所でのフッ化物洗口推進事業を展開しております。本年度は8つの幼稚園・保育園において実施しました。フッ化物洗口推進につきましては、知っておきたい歯科の健康知識の中に第一回としてフッ素ってなあに？冊子を作らせて戴いて啓蒙啓発に努めているところでございます。また就学時での6歳臼歯保護育成のための啓発雑誌の配布ということで歯のパスポートというものも新一年生を対象に、毎年、もう昨年の4月になりますけども、配布させて頂いております。9ページの方には三重歯ートネット事業障がい者歯科保健医療の充実ということでみえ歯ートネットを展開いたしております。みえ歯ートネット運営協議会を年一回

開催させて頂きまして、方向付けと活動の点検等を行っております。またお手元の資料の中に三重歯ートネットの協力歯科医院の名簿がございます。現在県内123箇所、各地区ごとに展開しております、障がい者の歯科ネットワークというものが機能致しております。みえ歯ートネットの研修会を開かせて頂きまして、歯科医師、歯科衛生士のスキルアップに努めております。また施設からの歯科保健指導の依頼というものも多くございますので、22年度はこちらの6施設で歯科保健指導等の研修会を開催させて頂きました。歯周病・歯周疾患予防対策事業と致しまして、地域8020運動推進協議会を開催させて頂いております。本年度開かせていただいたのは、ご覧の7地域で開催させて頂きました。そのうち鈴鹿、松阪、南勢志摩は年2回の開催となっております。それぞれの協議題を見ていただくと分かりますように、地域によって児童・乳幼児の歯科保健対策というものもありますし、歯周病検診・受診率の改善について、というふうに地域ごとに沿って協議題対応策をそれぞれ検討している会議となっております。また病院歯科連絡調整会議、2週間後に予定されておりますが、歯科医療連携のあり方について検討する予定でございます。公衆衛生活動の公衆衛生委員に支部担当者連絡協議会というのを開催させて頂きまして、地域との事業調整、あるいは地域の特色ある事業についてご報告を受けております。また、三重県8020推進普及活動事業と致しまして、三重県8020推進員さんの登録、並びに年6回以上の研修会を開きまして、スキルアップを図っています。本年度各事業への参加と致しましては、学校歯科保健事業でありますとか、要保護児童の歯科検診、歯科保健指導、また、子育て応援ワクワクフェスタ等にご参加していただいております。以上が三重県歯科医師会の担当部分についての事業報告でございます。

【中井会長】ありがとうございます。また、ご質問等は後ほど受けさせて頂くとしまして、報告はまだ続きますので、引き続きまして私ども歯科医師会の非常に心強い良きパートナーでもありますNPO法人の歯科衛生士会の渡瀬委員さんのほうからご報告をお願いしたいと思います。

【渡瀬委員】三重県歯科衛生士会の会長をしております渡瀬と申します、よろしくお願ひ致します。日ごろから大変皆様にはお世話になっております。地域歯科保健実践事業ですが、先ほど杉原委員から色々な事業の報告がございましたが、それぞれの事業につきましても歯科衛生士会に協力の依頼を頂きまして参加をさせて頂いております。この地域歯科保健実践事業は委託事業として歯科衛生士会が単独で受けさせて頂いております。まず口腔衛生状態の把握を通じたお口の健康相談ということで、開催場所が寺町商店街、おもてなしどころは松阪です。上野ふれあいランドは名張上野地区、高柳商店街は伊勢、熊野市商店街は尾鷲南紀で実施しています。まずこの経緯ですけれども、県の方からお声がけを戴きまして、歯科衛生士会は、県内にはかなりの歯科衛生士がみえるんですけれども、衛生士会現在会員は264名という数で、桑員支部から南の方まで、尾鷲南紀まで9支部で

活動しております。その中でそれぞれの地域に合った活動が何か出来ないかと言う事を色々話し合い、県からもご提案を戴き、その当時看護協会さんが商店街の活性化も含めて健康相談をして見えた所に一緒に参画してはどうかということで関わらせていただいたのが始まりとなっております。そのまま継続していかれるところもありますが、看護協会さんも撤退して行かれる中で、衛生士会はまだまだここは頑張っってやっって行こうという所が残っている所もございませし、上野ふれあいランド、上野名張では、今年の会員たちが、皆さんの気持ちが一つになって上野名張っっていうところで是非やっっていきたいということが声が挙がりましたのでここで7回という開催となりました。先ほどの報告にありましたように歯周疾患というものを予防していくことについては、本当に歯磨きっっていうものをまったく疎かにされている方もいるということをお会員たちの報告から聞いております。住民の方の意識もまだまだこんなものかなということ、改めてそれを知るところから始まって我々もとてもいい勉強になっています。2番目の小学校・中学校での歯科保健指導。ここは今回初めて中学校に入らせていただきました。小学校の低学年位まではご家族の方のサポートがありますが、だんだん食生活が疎かになっていったりとか、子供たちの自立と共に口腔内の状況が非常に悪くなっってくるのが中学校ぐらいかと思います。我々の歯科衛生士という職業というの、まだまだ認知度が低いということがあります。中学校ぐらから自分たちの職業の意識っっていうのが出来てくるっっていう事も聞きましたので、小学校中学校というところで、我々歯科衛生士がっこういうことをやっっていますっってこのPRしています。我々の活動が三重県のお口の健康の活性化につながれば、いい効果が出てくるかと思ひ、中学校の方へも今年から参画させて頂き、評判も良かったということですので今後も継続して行けたらと思っっております。ただこれが一回という事では全く効果が期待できませんので、やっぱり継続して行っるのが一番大事だと思ひます。妊産婦歯科保健指導は、四日市、津のマタニティークリニック2カ所でお実施しております。4番目の子育て歯磨き応援隊、この開催場所は紀宝町、尾鷲市、熊野市、御浜町で開催させてもらっています。ここも非常に好評でございませ。しかし、ここは会員の数が非常に少ないので、いつも同じ人が対応してあり一人で色々とお大変な思ひをされていますので、この地区にも少し応援が行けるような体制を作りたいと思っっています。9支部ある中で同じような講話だとか、色んなサービスが出来るように、歯科医師会の先生方とのお協力も戴きながら衛生士会も今以上に新しい情報も入れて、食べる事っっていうのがどんなに大切な事なのか伝えていく必要があります。その辺から考えると我々歯科衛生士っっていうのは、もともと歯を守るっっていうところから出来上がった職業ですので、そこのおところでもう一度私たちも再確認しながら頑張っっていきたくと思っっております。

【中井会長】ありがとうございました。これまでの事業報告のほとんどが、事業予算は厚労省の8020運動推進特別事業費を三重県が申請を致しまして、歯科医師会、或いは歯科衛生士会さんの方に委託をしていただく分でございます。引き続きまして、文部科学省

の方の予算になると思うんですが、県の教育委員会から同じように、特に学校歯科保健に対しての連携事業を活発に実施させて頂いております。本日は県の教育委員会の西村委員さんが御欠席ですので、代理に櫻井先生にお越し戴いておりますので、引き続き報告をお願いしたいと思います。よろしくお願いいたします。

【櫻井先生】三重県教育委員会生徒指導健康教育室で養護教諭の指導主事をしております櫻井です。よろしくお願いいたします。先ほどから三重県の歯と口の健康づくりのこの状態では学齢期が数値が悪いということが言われています。これは、三重県の中でもかなり大きな課題として取り上げていきたいということで文部科学省で委託を受けて実施しております。事業でもそれを重点課題として今年度から取り組ませていただいております。平成22年度子供の健康を守る地域専門家総合連携事業報告書というものです。これは文部科学省の事業ということで全部の予算を文科省からもらいましてやっている事業です。今、飛田先生から学校の中で歯のところが疎かになっていたかなってという話がありましたが、実は学校が抱える健康課題は、年々多様化して複雑化しています。不登校であるとか性的問題であるとか、いろんなものがある中で色々な地域の専門家の先生方と連携しながらやっていかないと、学校の中だけではクリアできない問題がたくさんになってきました。ですので地域の専門家と連携しながら健康課題を解決しましょうというのがこの事業の趣旨になっています。この事業の柱大きな一つに地域の専門医、専門医等というのは例えば歯科衛生士さんや助産師さん等の専門家の方を学校へ派遣をして、学校の保健指導に当たっていただく、それから健康相談に当たっていただくということです。この中に、重点項目の一つとして歯と口の健康づくりに関する内容というのを入れさせて戴きました。今年度は幾つかの小学校に歯科衛生士さんを派遣して戴きまして、学校歯科医さんが行う歯の指導のときに、実際に歯科衛生士さんにたくさん教室の中を歩き廻っていただいて、指導をしていただくということをしてもらいました。渡瀬委員のほうからもありましたように、やっぱり歯科衛生士さんに学校に入って戴くということは子供にとってもとても充実した時間になりますし、この指導の様子を家に行って報告したりですとか、それから地域の専門家の先生に入って頂くということで、主治医さんのある子については自分の行っているところの歯科衛生士さんが来てくれた、というような経験もあって周りの子に対しても「あ、この子主治医があるんだな」って言うような、一つの副産物のようなものもありました。こういう取組を通して歯と口の健康づくりを推進していくという事業を本年度させて頂きました。歯と口の健康づくりについては今後もうちの室として、それから教育委員会として、是非歯科医師会さんや健康福祉部さん、それから歯科衛生士会さんと一緒に取り組んでいきたいと考えています。今作成をしております三重県の教育振興ビジョンという大きなビジョンがあるんですが、その中にもこの中から写真を一枚掲載いたしまして、健康教育の推進に取り組みますというようなところに写真を掲載しているようなところです。このような指導を年に1回ではなくて継続して同じ所に2回ぐらいはやっぱり行きたい

ということで、鈴鹿市の小学校にも2回派遣を致しました。それから同じ鈴鹿市の中にある別の小学校には3回の派遣をしています。鈴鹿市は、先ほどのこの三重の歯科保健の中にあるデータを見ていただきますと、三重県のDMFの数値よりも上にあるところですので、そういうところに声を掛けていながら進めていきたいと思えます。この事業自体の予算というのは実は年々減らされてはいるのですが、ただ8020の厚生労働省さんからの国の事業や、歯科医師会さんの協力とかもありまして、事業としては拡大していく形で進められたらというふうに思っています。あともうひとつ健康課題のところ、地域差があります。特に伊勢よりも下の地域でかなり悪いというような状況です。先ほど飛田委員が、ライオンさんの事業に申し込んだんだけどもってというようなお話をされましたが、実はそのライオンさんの事業やりたい！っていうふうに希望をされる場所はすごく多いです。学校としては求めています、派遣をしていくその数が実は確保が出来なかった。特に先ほど言ったような伊勢よりも南の地域については、ライオンさんの支部が名古屋にあるがために、該当にもならなかった、というような実態が今までございました。ですので、この教育委員会の事業と健康福祉部さんの事業と一緒にできればということで、うちのほうで学校に声を掛けまして、南の方の地域にも衛生士さんを派遣していけるように今後も努めていきたいな、というふうに思っています。

【中井会長】どうもありがとうございました。ただいま平成22年度の歯科保健対策事業について3者の方にご報告・ご説明頂きましたが、これまでのご説明に対して質問等ございましたらお伺いしたいと思えますが如何でしょうか。この母と子のハッピーライフという小さなリーフレットですけれども、これは今年度初めて作りまして、29市町の担当者の方に、母子手帳を発行するときに一緒に付けてお渡ししていただいただけませんかということで県のほうから協力していただきましたところ、非常に前向きに、積極的にご協力を頂いております。今日は保健師協議会さんのほうからも御出席いただいておりますが、色々何か関連してご報告とかご意見がございましたらお伺いしたいと思えますが如何でしょうか。

【尾崎委員】保健師としましては、母と子のハッピーライフのパンフレットを、母子手帳の交付のときに挟ませていただき、お子様の成長と共に、どういう風に健康への意識を持っていただくのかということで関わっております。住民の方の健康づくりの基盤を作っていくところから、高齢者の80歳を過ぎても20本の歯を持つところまでの生涯に渡って色々な場面で関ることが多い職種ですが、なかなか成果が目に見えてこないというのが少しジレンマとしてあるところ、でも色々な関係の方々が、それぞれの立場で健康づくり、特に歯を切り口としての健康づくりに関って頂いてるっていうことを今日また実感しまして持ち帰って今後に生かしたいと思えます。尾鷲市の場合は、ちょっと残念なところがあるんですけども、本当に、先生方におっしゃっていただいたような継続という力をずっと続けていきたいなと今感じております。

【中井会長】どのステージでもそうですけども、母子保健対策のお母さん方にも、非常に感心の高い、子育てに対しても前向きな方もみえれば、なかなかそういった指導教室の時もお足をお運び頂けない、感心が低いのかなという格差がどうしてもあるような気がしまして、そういう底辺からのボトムアップをとということには私ども大変苦慮しております。よって、益々これから市町との情報共有をしながら、連携をとりながら進めていく必要があるかなと思っておりますので、ぜひともこれから連絡協議の方よろしくお願ひしたいと思います。それから事業報告の中に、高齢者対策で各病院、施設、或いは在宅への訪問指導では歯科衛生士さんが特に中心になっておりますが、口腔ケアを通して機能向上という事業の中で、これまでなかなか地域の包括センターとは、連携が取れなくて、一般の介護職員さん、或いは看護師さんが主に関与しておられました。今年度、それに関する2つの調査を致しました。テーマが、三重県における入院患者を対象とした口腔ケアに関する調査概要というもの、もう1つが口腔ケアの対象患者の動向調査というものです。これは、入院患者の場合は、三重県下102の病院に対して調査をさせて頂きましたところ71.5%、72の施設から非常に協力的に回答いただきました。これを見ますと、多くの施設では、80%以上が毎日、或いは週1以上の、口腔ケアを実施されておられるという状態で、入院患者に対しても、かなり手厚くケアされておられますが、中身については、実施者が看護師さんでありますとか、介護関係者ということで、時間も1分以内や、長くても3分、また、口腔清拭のような内容でもあろうかと推測されます。今後これをもう少し専門的な立場から誤嚥性肺炎の予防や、咀嚼機能の回復、嚥下の回復であるといったことを目指していくためには、歯科医師、又は歯科衛生士の関与も必要だという風に考えております。その辺の病院と地域の歯科医師さん、歯科衛生士さんとの今連携がほとんどないという実体がありますので、今後は、そういったところの情報提供、またサマリーの提供ということで、患者様が入院からリハビリ施設、或いは施設・居宅に行かれてもサービスがシームレスに提供できるような体制作りを今後は考えていかなければいけないというふうに思っております。今日は佐波委員さんもお越しですけど、何かそういった観点からご指摘あるいは御意見ございましたら頂戴したいと思います。

【佐波委員】今、会長さんのほうからお話いただきましたように、施設の中におきまして私どもの方も特別養護老人ホーム50床を持っているわけでございますけども、前年度でしたか歯科医師の先生、そして歯科衛生士の先生にお越しいただきまして口腔指導のやり方というものをご指導いただきました。初めてお入り頂いたわけですけども、その中で実際にブラッシングの仕方であるとか口腔内ケアのやり方というのを丁寧に教えていただきましたことで施設内の職員のスキルアップにも繋がったのではないかと思います。ただ今ずっと実績をお話を聞いていますと、やっぱり乳幼児、子供さん、それから妊婦さんという取組が多く、高齢者の方に対する資料が少ないのかなという気がするわけですけども、

8020運動にもありますように80歳で20本の歯を残すことは、大変大事な事であると思いますけども、私どもが対象とさせて頂いておりますのは介護認定を受けられた方がメインでございます。で、その方の中で、もちろん自分で食事を採られる方につきましては食事前に口腔体操であるとか「パ、タ、カ」とかというようなその発声をしたりとか、要は唾液を出す運動であるとか、舌の動きを良くする運動、要は飲み込みをしっかりと誤嚥性肺炎を防ぐというような運動をさせてもらっていますが、特別養護老人ホームというのは、今平均の介護度が4.0まで来ている状況でございます。そんな中でご自分で食事を召し上がる事が出来ない方もたくさんみえます。そんな方に対する口腔指導が、食事の介助の方法にもなってくるんだと思いますけども、結局、噛む事すら、或いは飲み込む事すら忘れてしまわれる方が、ごくまれにみえるわけです。そういう方々に対して、病院さんですとすぐに胃瘻を作られて口から食べる事が無くなってしまいうわけですけども、例えば胃瘻で施設へ来られた方であっても、最初ゼリーぐらいから始めて飲み込む事が出来る事が分かれば練り食等の食事に変えていくということをさせていただいてはおります。そんな中で食べるという介助をさせて頂くときに、歯の存在が、かえって邪魔になるということも無きにしもあらずというところがあります。ですから自分で噛んでしっかり食べることによって健康を維持するこれはとても大事なことなんですけども、食べれなくなってしまった方に対して、歯が数本残ってしまって、特に前歯が残っていることによって介助に困難を来すということもあります。そういう歯に対して、ちゃんとしたケアをしていくことがうまく出来ればいいと思うんですけど、結局その歯のところから菌が付いて病気になるって、で肺炎を起すということもあるかと思しますのでそこら辺の指導についても、先ほどもありましたけど8020推進員の方が見えるということですので、その方にもお越しいただいて、特に地域の中ではいきいきサロンというのをさせて頂いております。地域のお年寄りに集まってお話をして、色々体操をしたりとか、健康の講和をしたりする訳ですけども、その中で歯の健康についてのお話もして頂けたらまたそれはそれで一つの啓発になるんじゃないかなと思います。

【中井会長】ありがとうございます。今のお話に関連して、施設等で、今口腔ケアを中心に歯科衛生士さんにご活躍頂いておりますが、技工士会さんも、入れ歯の、サポートが必要になってご自身できれいにできない方の為にボランティアで出向されて入れ歯の清掃をされたりという事業実績がおりますが、大西委員さんのほうからは何かそういったことに関連しての御意見とかご報告がありましたらお伺いしたいと思いますけれども。

【大西委員】ありがとうございます。歯科技工士という職業の立場でこの8020運動に関して、どのような角度で関れるのかっていうようなことが、我々の中で考えて参りました。唯一我々は機能回復という観点の立場の職業でして、そういう意味での今施設に入られている方々の義歯の清掃が我々の関れることの一つかなということで前清水会長時代に

この8020運動の活動として色々な施設に行かせていただいたと聞いております。施設入所者の方々の入れ歯クリーニングをさせて頂いているというふうな経緯がございました。しかし、昨年4月からは、そのような事業が無くなり、各地元の歯科技工士会が前年から引き継いでいる事業とタイアップして、技工士会単独実施しているところもあります。各地域での歯の健康祭等で、色々な職種がブースを設けてやってる事業がありますが、その中で我々地域の歯科技工士会として来て頂いた方々に対して入れ歯クリーニングしますよということでやっております。それともう一つ別の角度からの話なんですけども、先ほど学校歯科保健推進事業の報告の中で、我々先ほど申しましたように機能回復が主の立場でございまして、そういう意味での予防には何か関わることはできないのかという観点から、今教育委員会の先生方にも関係してくると思いますが、いわゆる中学校高校、一般の方でもそうですが、スポーツによる外傷防止が昨今ラグビーであるとかもちろんボクシングも含めてされているということもあります。それで、先ほどの報告の中で外傷時の対策ということをテーマに話をされたという観点がありますので、そういう意味でも、是非とも学童期のところにおいても一つのテーマとしてもう少し加えて戴けたらなと思います。だからそういうスポーツ歯科に関する市民講座を開催していくとか、その中で我々が関わって、実はこういうものですよ、市販されているものはこうだけでも、実際にきっちり作るとよりフィットをして、より外傷防止の可能性が高くなりますよというような観点で、その部分でも関わたらというような気持ちは持っております。

【櫻井先生】ありがとうございました。教育委員会も、実は健康を色々な角度から考えていく中で、運動期とかスポーツ障害の事については色々と考えておりました。この事業で、例えば専門医さんを派遣する時に、マウスガードなんかの活用もできればと考えております。実は特に歯の大きな怪我っていう事もありますし、それからスポーツのパフォーマンスを上げるという意味でもマウスガードというのはすごく高校の部活動の間でも注目されています。ただ広がりがないのは実際のところだと思いますので、本当に全国で上を狙っていくような、ラグビーとかウエイトリフティングとか、色々な種目があるかとは思いますが、そういうところからの希望があれば、スポーツ障害を含む一環として、歯を守る、それからスポーツのパフォーマンスを上げるという意味でも関わりを一緒にさせて頂けたらなという風に思います。

【中井会長】ありがとうございます。話題のキャッチボールが出来ましたので、なんか推進出来そうな気が漂って参りました。その他何かこれまでのところでご質問ご意見ございませんでしょうか。事業の中に、噛む事から考える食育、先ほど食育の話も出たんですが、最近ご家庭の中でも、どなたが食べるという事、或いは食事のマナーを教えているのか、我々は家族で揃って子供のときは食べるのが当たり前のように思ってたんですけども、やはり時代と共に、ご夫婦で仕事に出られる、或いは時間帯がずいぶん違うということで、

家族の中でも揃って食べる、お爺ちゃんお婆ちゃんから「こうしたらあかんよ、箸をこうやって持つんやよ、よく噛んでね」ということから、どうもそういうことが無いまま成長されていくご家庭も増えてきているのではないかと思います。そういったこと諸々を考えまして、噛むことから考える食育ということでかむかむクッキングコンクールというのを第二回までやって、非常に多くのレシピ、350に及ぶ作品の応募がありました。今後の展開も色々と検討をしなければいけないと考えておりますが、副審査委員長を務めて頂いております栄養士の信国委員さんもおみえですので、これまでの取組みについて大変ご協力いただいておりますが、何か意見とかご感想とかあればこの場で頂きたいと思っております。

【信国委員】私は食べる方の栄養士会というところから出させて頂いております。今会長からご説明がありましたかむかむクッキングにも2回携わらせていただいております。レシピの数がたくさん集まりまして、大変嬉しかったのですが、選ぶのもまた大変でした。でも私たちの職業、食べること、今皆さんからお話を聞いていまして、一番大事な入り口の歯が無いことには噛めませんよね。やはり歯の大切さっていうのはひしひし感じておりまして、今メタボ対策であちこち企業を廻らせていただいておりますし、食育で子供さんがたにも携わらせていただいております。妊婦さんとも、以前は色々教室でもお話し合いも致しました。食べる事もとっても大切です。バランスが一番大切だよっていうお話を随分してまいりました。それで厚生省からも出してあります、やはり野菜が足りないというところで、やはり噛まないものが増えてきているっていうのは皆さんご承知だと思います。それでこういったかむかむクッキングっていうのを開くということは非常に皆さんの意識の向上には役に立つのかなと思って非常に喜んでおります。こういったのがずっと広がっていければなおかついいですし、子供さんを通して親御さんにお話をさせていただくっていうのが非常に大事なPRになると思っております。それと、歯周病が多いっていうことが話題になっておりますが、また糖尿病も多いので、それに関して歯と特別に関係があると思っております。なので、噛むということの大切さで、歯が一本なくてもやはり噛めません。噛まないということは硬い物を避けて通っていきます。で、歯があるということは非常においしさを感じますね。だから噛めるように治していただくというのは一番大切な事だと思います。それと、子供の頃から食べる事をバランスを教えながら歯の大切さ、それから外へ出ていると私たちも磨きたくても磨けないということがあります。そういう時には私個人ではお茶を飲んだりとかお水ですすいだりという方法をとっているんですけども、子供さんにもそういった臨時的に急遽どうすればいいかっていうのも教えて戴いたらありがたいなって思っております。いつも歯を磨ける状態ではないですし、大きくなれば、40代の方が非常にメタボで難しいんですよね、集まっていただけないっていう事もあるし仕事が忙しいのに食べることまではちょっと二の次だわっていうところもありますので、そういう方たちにも歯を磨く、後の口腔ケアの大切さをあちこちで伝えていかなければいけないなと思っております。やはり一番お口の入り口が大切だと思っておりま

すので自分の歯も大切、万が一歯がなくなった場合に上手く噛めないと非常にストレスになってきます。皆さんお集まりになっていただいている方、とても皆一生懸命やっってもらっているのすごいなと思います。歯科衛生士さんも頑張っているから、私たちも負けずに頑張らないといけないなと、今本当にそういった心境であります。

【中井会長】今後とも是非とも連携をとりながらこういった事業を進めていきたいと思っておりますのでご協力よろしくお願い致します。それでは引き続きましての議題に入らせて戴きたいと思っております。平成23年度の三重県歯科保健推進計画案に関する事でございますので、事務局の方からご説明お願い致します。

【事務局】三重県の歯科保予算は、そのほとんどを国の予算を頂きまして実施しているわけですが、計画については、このような協議会に諮ってご意見をいただくことになっておりますので、委員の皆様より様々なご意見を頂戴したいと思っております。

各ライフステージに沿った事業ということで、幼児期・学齢期に関しましては次世代育成事業というもののなかで食育の推進、それから妊産婦さんへの歯科保健指導を実施します。妊産婦さんに指導することによって生まれてくるお子さんのお口の中の健康に結びつきますので取り組んでいきたいと考えています。それから歯科のほうで、虫歯が多くて治療をしていないお子さんが適切な教育を受けていないという可能性もありますので、そういう視点から歯科で児童虐待の早期発見につながるような支援ができないかということで、児童虐待予防に歯科医師会さんも熱心に取り組んで戴いているところです。その事業の一環として児童相談所一時保護所での歯科保健指導、そして歯科検診を実施して戴いております。これも次年度、好評ですので、継続していきたく思っております。その児童相談所のお子さんは2ヶ月以内に施設なり、ご自宅に戻られるわけですが、自分自身が健康を守る知識を身につけて戴いて生活していただけるようにということで実施しております。

それから学校歯科保健推進事業ということで先ほどからお話がありましたように、虫歯が多いということで教育委員会様とも連携をしながら学校での歯科保健事業の充実、それから学校歯科医、養護教員の先生方と認識の共有なども行っていくように計画しております。それから虫歯予防効果の高いフッ化物洗口についても、まだまだ三重県は実施施設が少ないですが、虫歯予防は食生活やブラッシング、そしてフッ化物の応用など色々な予防法がありまして、そのなかのう蝕予防の一つでありますので、そういうようなことが必要な地域は推進出来るような体制を整えていきたいと考えています。それから地域歯科保健実践事業は歯科衛生士会さんに継続してお願いしたいと思っておりますが、歯科保健指導を地域でたくさん展開して行って戴きたいと考えております。

それからなかなか対策が取り難いところですが、歯周疾患予防対策事業は、成人の方に対してどのように働きかけが出来るかということ、次年度専門検討委員会を立ち上

げまして全身と歯周病との関連というような事から何かツールを作って、歯周疾患検診の啓発に繋げていきたいと思っております。

それから高齢期ですけれども、次年度の計画としまして、三重県歯科医師会に口腔ケアステーションというものを設置させていただきまして、ここを拠点に地域の歯科医師の先生方、そして歯科衛生士さん、病院、介護施設、そして患者さんのお家というというような所で切れ目のない口腔ケア、そして歯科医療が提供できるような体制を作っていくことを予定しております。

それからネットワーク作りについて、現在7地域で地域8020運動協議会を開催させて頂いております。地域課題に応じた協議をして頂いております、これがあることによって大変地域の連携が進んできております。とても有効な協議会だと思っておりますので、次年度も継続して実施していきたいと思っております。また課題のある地域は別途設置させて戴いて進めさせて戴きたいと思っております。

それから地域歯科保健支援事業として、県が市町支援を行っているとともに、このすべての事業に関わり進めさせて頂いておりますので、このようなネットワークを通じまして地域課題に対する効果的な取組みを行っていききたいというようなことを考えております。

それから障がい者歯科に関しましては、みえ歯ートネットを昨年2月に立ち上げまして現在体制づくりを進めているところでございますが、まだまだ十分ではありませんので、継続して受け入れ医療従事者のスキルアップを図るとともに連携を深めていく予定になっております。それから人材育成では、県として、は公衆衛生学院のほうで歯科衛生士さんの育成を行っております。養成期間も3年になりまして歯科衛生士に求められることももっと拡大してまいりましたので充実した教育を行っていきます。それから人材育成のところでは三重県8020運動推進員さんという歯科衛生士さんを要請しておりますので、この方たちが地域で活動していただけるように更なるスキルアップを目指していきたいと思っております。次年度はこのような事業を計画しております。

それからもうひとつ、これは歯科衛生士さんが不足しているというような現状があり、なかなか全ての歯科医院で歯科衛生士が配置されているわけではありません。そして地域保健活動をする歯科衛生士も不足しております。三重県内には歯科衛生士の資格を取られて、現在結婚とか子育てで休職されておられる衛生士さんがたくさんおられますので、そういう衛生士さん、一度離職されるとなかなか復職をためらっておられる方もおられますので、そういう方たちに対して今回緊急雇用創出事業という国の基金を活用させて戴きまして、休職している歯科衛生士さんに対して各歯科医院で実践研修をしていただきながら働いて戴くというような職場への復帰とスキルアップ研修を同時に実施するというような事業をもう既に今年1月から実施しているところでございます。このような事業を通じて今後歯科衛生士さんがたくさん復帰していただけるように働きかけをしていく予定になっております。このようなことで次年度の事業を計画しておりますので、先程、大西委員からもマウスガードに関するご要望をいただきましたので、このようなことも検討してい

きたいと思います。他にも御意見ございましたら頂戴したいと思いますのでよろしくお願
い致します。

【中井会長】ありがとうございます。大変多くの傾向についてご説明をして頂きました。
何かここで皆様方から次年度計画についてのご質問とか御意見ございましたらお願いし
たいと思いますが如何でしょうか。冒頭事務局から三重の歯科保健についてのご説明があ
りましたが、この三重の歯科保健の中に各市町の健康増進法に基づく歯周疾患検診の取組
の状況がございます。健康増進法に基づきますと40歳以上、節目検診となりますが、20
歳代、30歳代はじゃあどうするのかという課題があります。学校での検診を終えられた
方は就職をされたり、或いはその他の所に進みますと自主的に歯科医院を訪れない限りは
検診の機会が少なくなってくるわけでございます。就職された方に関しては企業等で、健
保組合等の事業があるかと思いますが、三重県においては市町の取り組んで頂いている
ところはこういった状況ということで、パーセントからすると少ない状況でございます。
お口のなかはあまり良くない状況にあるということを考えますと、どこかでその状況を改
善する政策を考えていかなければならないと思いますが、今年度は健保連のニュースに、
歯科保健に関する色んなコラムを掲載した経緯があります。そういったところで啓発の機
会を頂いておりますけども、特定検診の中に歯科の項目が無いということがありまして、
各企業等での検診が進んでいない実情があります。今日は平川委員さんにもお越しいた
だいておりますが、特にこれまでは酸蝕症等の項目、特に化学薬品等、そういった特殊な企
業体での検診は法律に基づいて行われていたんですが、一般的な検診ということについて、
健保組合でありますとか、企業ごとの検診については歯科は介入が少ないのですが、そ
ういった事について何かご意見とかご感想がございましたらお伺いしたいと思いますが如何
でしょうか。

【平川委員】今会長さんの方からお話ございました通り、労働安全性法の中には歯科酸
蝕のこししか規定がありませんから、一般的な歯の健康に関しては私たち行政として非常
に進めにくい状況になります。その中で一般的な健康に関して、今世間的に非常に注目を
集めているのがメンタルヘルスです。メンタルヘルスは実は法律的には何も規定がない事
項ですけども、企業さんは、そういったところでは結構関心が高くてそれに関して例えば
先生を呼んで皆さんに講習をしたりっていうことが行われています。実は私この行政に入
って30年になりますが、歯科衛生士さんが実際私たちの目の前に来て戴いて歯の磨き方
であるとか言う事に関してお話を伺ったことが1回しかないんです。それは実は去年
でした。それまでは1回も無かったもんですから、そういった意味では労働者の方々が色々
集まっている場所にお越し戴いてそれでお話を伺う機会がこれから後はもっと多
くなくても良いのかなという風に思っております。そのお話を伺った機会というのは実は桑
名の産業安全衛生大会が毎年11月ぐらいに行われるのですが、その場に来ていただい

て直接ご指導戴いた次第です。確か40 - 50分話をされたと思いますが、そういったことをやるのであれば、恐らく各地の安全衛生大会でも何らかの協力を戴く事が出来るのではないかという風には思っております。それと後一つ、先程会長のお話の中で、家族が揃って食事をする機会が減ってきているというお話がありましたが、実はそれに関して私たち行政のほうで進めているのがワークライフバランスでございますので、そのワークライフバランスでもその家族と一緒に食事をしようということで、三重労働局としても、ワークライフバランスをもっと広るよう取り組んでおります。そういったところにも、歯とは直接関係ないかもしれませんが、私たち行政としては進めていくことが出来るんじゃないかという風に思っています。働いている人達の場の中にどういう形でもって来て戴く事が出来るのかを、私たちも考えてはみたいと思っておりますが、もう少しお時間を頂きたい、研究させて頂きたいと思っております。

【中井会長】ありがとうございます。学校等の検診において、虫歯の格差が広がっている。その中でネグレクトではないかという所見の方が児童・生徒の中に見受けられる事があります。そういったスクリーニングが可能性として示唆されている訳ですけども、労働の中でも、ストレスから、精神的な不安とかストレスから噛み締めとか食いしばりが過度になった場合知覚過敏でありますとか、或いは顎関節症、或いは頭痛、肩こりといった色々な症状が出る事がありますので、そういった面からのスクリーニングの可能性ということも含めて、メンタルヘルスも含めて色々とお役に立てる関連の検診でもありますので是非ともまた今後ご検討いただければと思います。それでは、時間もなくなってきましたのでこれまでのところで、次年度事業へも含めまして、今日は中垣教授にお越しになっていただいておりますので、中垣先生のほうから少しアドバイスを頂戴できればと思います。よろしくをお願いします。

【中垣委員】色々なお立場のご活躍本当にすごいなと思って聞いていました。一つ全体に思った事ですけど、確かに予算がないと活動出来ませんよね。でもちょっとそこが全体にどうなのかなと思って聞いていました。というのは、本来お金があって活動するのではなくて、健康とか子供たちの、或いは成人の産業で法律がないからってということなんですけど、この歯科部会の目標は何だろうと考えてしまいます。要するに、住民の健康づくりに必要だから色々考えているのだろうと思うので、予算があろうが無かろうが考える姿勢というのがありますよね。ただお金がないと出来ませんから、それはよく分かるんですけど、ですからお金が無くてもやっていける方法を工夫することが大切かなと思いました。特に学校保健のプログラムもすごいと僕は思っているんですけど、一つ例えば専門家ってというのは各学校の姿ってというのがあってもいいかと思うので、例えば学校の保護者の中に歯科衛生士さんなどの専門家がおられると思うんですね。だからそういう資源を使うみたいな形でもお金はいらないのではないかと思うので、そういう個々の活動もいいかなと思った

りもします。やっぱり生活習慣が大切という事があると思うのと、例えば L 社の歯科衛生士さんが来ないと活動出来ないとかそういう視点も大事ですけど、個々の学校でやることをやっていったほうがいいかなと思いました。だからやっぱり自分たちでそこでやることをやっていくっていう思想は大事なかなと思いました。勿論予算があった方がいいし国からたくさん貰ったほうがいいと思いますけど、もうちょっと個々の人たちに結び付いていくには、やっぱり出来る事をそこでやっていくという大事な考え方がある、それを実現していくことだと思いました。予算も去ることながら、その中でみんなが大切だからやっていこうって言って、学校保健健康計画もそうですし、労働安全性もそうですと思います。例えば労働安全性法でもどうやって入っていくかっていうことは、確かに大変大きい問題ですが、2つの切り口があると僕は思います。一つは今メタボでもそうですけど、よくよく見てみると、メタボとか色々やっていると医療費とか企業の色々のお金の事でも歯科のことやると色々なところが改善されてきているっていうデータもちょっとあるので、やっぱりそういうような事で法律が無くても従業員の健康をうちは守るんだっていう会社があればですね、そういう事で能率をあげていくっていうのがあると思うし。もう一つはやはり学校保健、申し訳ないのですが、生活習慣なので産業衛生が当てにならないとしたとすると、やっぱり小中学校、高校の学校保健を充実して生活習慣を身につかせて外へ出してあげることが必要かと思います。そうするとだいたい歯が抜けるのは40から抜けますから、20年間守ってくれば歯が残るっていうことになりますから。そうすると先程老人保健施設の話で歯が邪魔だという話ですけど、あと20年後になったら全員が歯があるっていう形になってきますから、そのとき歯を抜くかっていうことですよね。ですから歯周病をなくすのは、簡単でして、歯を抜けばなくなっちゃいますから。ですから歯周病を無くすにはどうしたらいいかという歯を抜くということとは違うんですよね。本来歯はその人の尊厳みたいなところがあって、やっぱりもっと今後はたくさんの方が老人介護施設に入っていくので、歯が無い現象っていうのはどんどん無くなっていくと思います。だからそうやって見るとやっぱり子供の頃からの取組が全部繋がっているような形です。もうちょっと個々に出来ることを展開する事業をそれぞれの部分が努力してやっていくといいかな、と思ってました。でもいずれにしても予算ありきっていうのはもうちょっと考え直す必要があるんじゃないかって思います。本当はそうじゃなくて子供たちに必要だからとか、子供は成人の元だから、大人の健康を守るために子供だ！とかそういう視線でね、見ていく必要があるのかなと思いました。全体を見てそれぞれ素晴らしい活動をされてるんですけども、ちょっとそういう視点がいるのかなと、全体を伺ってありました。あといずれにしてもそれぞれが結びついて色々やってっていただきたいなっていう風に思いますので是非引き続き努力をお願いしたいと思います。

【中井会長】中垣先生どうもありがとうございます。私どもの仕事の信条の原点に戻るようなお話を頂きました。確かに時代がどんどんと様変わりしてきまして、健康状態の変化

に、そういったことに即応出来る展開というものを私ども心がけて、原点に立ち戻ってもう一度考えて参りたいと思います。今本当に三重県行政とは大変良いパートナーシップに三重県はあると思います。全国的にも自慢できるような行政との関わりにあると思いますので、更に地域行政、また民間の色々な団体、それからそれがひいては地域住民のところに浸透していくようにいかに努力をしていくか、味付けをするかというのが私どもの責務かと思えます。更に一層の協力を求めまして、協議会の進行を事務局にお返ししたいと思います。よろしく申し上げます。

【事務局】本日はたくさんのご意見を頂きましてありがとうございました。委員の皆様には今年度3月31日までの任期でお願いしておりますが、次年度もこの時期に協議会を開催させて頂きたいと思えますので今後とも引き続き御意見ご指導承りたいと思えます。よろしくお願い致します。

【事務局】それでは、委員の皆様貴重な御意見ありがとうございました。今日頂きましたご意見につきましては、今後の8020運動の推進、並びに8020推進事業県で行っております事業にも反映させて頂きたいと思えます。またご存知のように、ヘルシーピープル三重が24年度で三重県の健康づくり総合計画が終了となります。そういう中で来年度から評価をしていく中で、歯科についてもこのヘルシーピープルの中で重要な位置づけをもっております。そういう評価の中で次期25年度以降の計画の中でもですね、歯の健康について、歯科保健について反映させて頂きたいと思えます。先生方の御意見も参考に今後そのような部分にもご協力頂ければ思えますもので、今後とも関係機関の皆様も含めご協力の程よろしくお願い致します。本日はどうもありがとうございました。